2007年4月19日発行 ■発行責任者／青木勝幸 ■編集・制作／（株）アート・サプライ ■発行／（株）NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号長田ビル2F　TEL.03（5475）1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS
2007 No.193 4月号
全国整備工場の皆様へNPG組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

リビルト部品の「お得」な使い方

正しい知識と的確な判断、そして取り扱い手順の確認を

知識と技術に裏付けされた「お得な」修理で、お客様の信頼を得よう！

「知っている」「分かった」と思い込んでしまうことで、行き違いが起こるケースは多いものです。リビルト部品によるトラブルも同じようなもの、その大半は添付されている取扱説明書、取付要領書にしっかり目を通すことで、未然に防ぐことができます。自信を持って技術を示し、「お得」な修理方法を提案すれば、ユーザーからも支持されて、顧客の厳しい囲い込み競争にも勝ち残れます。

リビルト部品を上手に活用すれば、新品部品を購入するより「お得」な修理ができます。しかし取付前の準備を怠ると、トラブルの基になり、お客様にも迷惑をかけることになります。トラブルの原因をリビルト部品の品質にある、とばかり決めつけることはできないようです。

NGP協同組合がお勧めしているリビルト部品は、厳密で高い品質基準を定めて生産し、検査をした上で出荷する信頼できるリビルト部品メーカーの製品を厳選しています。それでも、トラブルは起きているようです。

輸送途中のトラブルで破損したなどケースや、中には製品の強度不足などの不具合もありますが、意外と取付前の確認を怠っていたり、取付手順を誤っているといったうっかりミスも多いものです。

例えば、エンジンやミッション、パワステポンプなどは、輸送中のオイル漏れを防ぐために、オイルを抜いて出荷しています。当然、取付時にオイル注入をしないと、焼付けを起こします。また、配管ホースなどが確実に接続されていないなどの取付ミスで、せっかく部品を交換しても故障する場合があります。

リビルトターボにつけられたタグ

「取り外したターボの吸入インペラを止めているナットがついているか、必ず確認してください。無い場合はエアクリーナーが吸気パイプに残っていて、取り替えたターボを壊します。・・・・」

と注意点と、見落としのトラブルはクレーム対象外であることを明示している

リビルト部品には、こうしたトラブルを防ぐために、メーカーが取扱説明書や取付要領書を添付して出荷しています。また、特に注意してほしい場所には、製品自体にタグやシールを貼付けてトラブル防止につながるように注意喚起をしています。

また知っているようで、気づいていないこともあります。ドライブシャフトのブーツは伸び縮みするため、ミッション側を若干縮めた状態で出荷されているものがあります。そうした製品は、寸法に狂いが生じているわけではありません。アウター側とミッション側それぞれのブーツ間の寸法、ブーツバンド間寸法が交換するものと同じならば、心配なく交換できます。

あるいは、今売れ筋となっている軽自動車のアウタージョイントで、同じ車種で歯数が違っていたり（スズキのアルト、ワゴンR、ダイハツのミラ）、歯数は同じでもインナーの止め方が違っている（ダイハツのミラ、ムーブ、オプティ）といったケースもあります。こういうケースでは、交換する部品を前もってしっかり確認することが大切で、取付作業のミスを防ぐことができます。

同じような理屈で、原因の究明不足から部品を交換しても故障が直らないということも起きることがあります。オーバーヒートや白煙などの現象は、エンジンのトラブルばかりではありません。実際にはラヂエーターなど、エンジンの周辺に原因があることはよくあることです。

リビルト部品を使い慣れることで光る技術
故障原因を分析する確かな目も育つ

リビルト部品の取付注意点

ターボチャージャー

ポイント1:取付前の確認
- ◇エアクリーナー、吸気パイプ、吸気／排気マニホールド内の異物、オイル付着の確認
- ◇エアクリーナーの汚れ、目詰まり
- ◇ターボのオイルドレンパイプ、インレットパイプ、ユニオンボルトのカーボン目詰まり、汚れ、潰れ、異物
- ◇PCVバルブの作動、つまり

ポイント2:取付時の確認
- ◇エンジンオイルの交換(メーカー指定のグレード、粘度)
- ◇ターボオイル入口にきれいなエンジンオイルを注入し、ローターを指で回し、ベアリングにオイルをいきわたらせる
- ◇ターボオイル入口、出口部に純正ガスケットを使用
- ◇ターボオイル入口、パイプ、ユニオンボルトにゴミが入らないようにする

ポイント3:取付後の確認
- ◇エンジンの回転数を急激に上げない
- ◇10分ぐらいのアイドリングを保持
- ◇空吹かしをせず、実際に走行し作動状況を確認する
- ◇ターボ交換後にエンジンフラッシング、クリーニングは行わない

ラック&ピニオン

ポイント1:ステアリング先ユニバーサルジョイントを点検
- ◇手で回してスムーズに回転するか、伸び縮みはスムーズか等

ポイント2:高圧、低圧チューブの取付
- ◇ネジやま部をよく清掃し、シールして取付ける
- ◇銅ワッシャーやOリングが必要なタイプは必ず新品に交換
- ◇締め付けトルクは規定値で

ポイント3:
交換後の調整＝油圧回路のエア抜機、オイル漏れの点検など

＊組立て調整で遊びを無くしているため、重く感じたり、ハンドルの戻りが悪く感じることがある。走行していると、なじみが出るので問題はない

エアコンコンプレッサー

ポイント:取外したコンプレッサーのハブクラッチの回転がスムーズかを手で確認

❶回転する	❷回転が重い、引っかかる	❸回転しない
⇩	⇩	⇩
問題なし	コンプレッサー内部の破損くずが配管内部に飛散している	エアコンガスが通るすべての部品を点検し、清掃、必要な部品の交換を

アウタージョイント

ポイント:選定ゲージで測る

◇アウタージョイントを取外し、シャフトを並べて比較すると、歯数18枚のものがやや細い。単品では判別は難しく、歯数を数えるか、リビルトメーカーが用意した専用の選定ゲージを使うしかない

右が歯数19枚、左が歯数18枚。純正品で、同一部品メーカーが歯数の違う製品を供給しているケースもあり、メーカー名の刻印だけで判別できないケースもあるため、NGP組合員に要確認

＊取り上げた部品は、事例の一部としてメーカーの取付要領書、注意書から抜粋しました。メーカーの注意書、取付要領書で確認することが必要になります。

表はリビルトメーカーが、製品に添付している注意書や取付要領書から代表的なアイテムを選定し、その要点だけを絞り込んで一覧にまとめてみたものです。こうした細かな注意事項について、リビルト部品を使用した経験があればよくご承知のことと思います。

現在のカーアフターマーケットは、黙っていても修理･整備の客数がアップするという恵まれた環境にありません。その中でお客様を大切につなぎとめ、次回も来店してもらうためには積極的に提案し、お客様が納得するサービスを提供するしかありません。そうした提案のひとつに「価格を抑えた修理」があり、そのために有効なアイテムの一つがリビルト部品であり、リユース部品ということになります。

こうしたリビルト部品、リユース部品の使い方に特別な秘策があるわけではありません。大事なことは、まず故障原因をしっかりつかみ、部品交換を提案する。部品交換･取付時は説明書や整備マニュアルに沿った正しい手順で行い、そして取付後には調整を徹底する。こうした作業の基本を守ることでユーザーに喜ばれ、自社の経営効率化につながる「お得」な整備･修理作業ができるのではないでしょうか。

物流効率化対策事業の調査・研究成果まとまる

物流費削減に課題山積 通い箱の利用には可能性

リサイクル部品の荷姿はまちまちで、トラックへの効率的な荷積みが難しい

製本した『調査研究・基本計画策定事業報告書』

輸送コスト削減には、引取・配送で密度を上げるというアプローチも必要だし、梱包材の見直しなども重要な課題だ。再利用可能な梱包材でコストも下がり、納品先も便利さを増す。解決の糸口は明らかになったが、それと同じだけ難しさも見えてくる

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、経済産業省関東経済産業局の補助事業で「平成18年度中小企業エネルギー使用合理化物流効率化対策事業」の「調査研究・基本計画策定事業」に取り組みました。昨年9月からの半年間、自動車リサイクル部品の輸送効率化と梱包の簡素化をテーマに中小運送事業者で構成する日本ローカルネットワークシステム協同組合連合会と共同研究したもので、その成果がまとまりましたので報告します。

今回の研究では、NGP組合員の物流データを分析し、リサイクル部品物流の現状とその問題点を把握するとともに、効率化手法としてのリターナブル梱包材・通い箱についても調査しました。

物流費は軽油価格の高騰などを背景に上昇し、NGP組合員の経営を圧迫する大きな要因になっています。この問題を一挙に解決とまではいかないものの、NGP組合員の物流実態を把握したことで問題点の整理ができ、また通い箱についても、納品先であるディーラー、総合整備事業者、車体整備専業者へのヒヤリング調査で、関心があり、導入できる可能性もあることが分かりました。

物流の効率化は今後、重要性を増す経営課題になると考えます。この問題を解決するための課題整理や解決の糸口が見出せたことは、次のステップへつながる成果であります。今回の調査研究を踏まえ、継続的な研究に取り組み、将来に備えることが必要になると思います。

物流データの分析では、同じSサイズの梱包荷物でも、NGP組合員各社の支払っている運賃にかなり差があること、集荷と配送の都道府県別個数比較では、両者が比例的関係にないことが分かりました。例えば、広島は集荷個数で上から2番目でしたが、配送では19番目という具合に、都道府県によって集荷と配送の物量に大きな差が生じています。

組合員の物流構造にも費用アップの要因が内在

NGP組合員1社当たりで見ると、自分の県内に出荷している物量が少ないことも分かりました。配送個数で自社県内配送割合が高いのは、道央20.7%、道北14.2%、愛知11.3%、福岡10.7%の順で、他の都道府県は1桁台です。自社県内への出荷割合が少ないことが、売上に占める運賃の割合を高めており、運賃高騰が利益を圧迫する要因になっていると思われます。

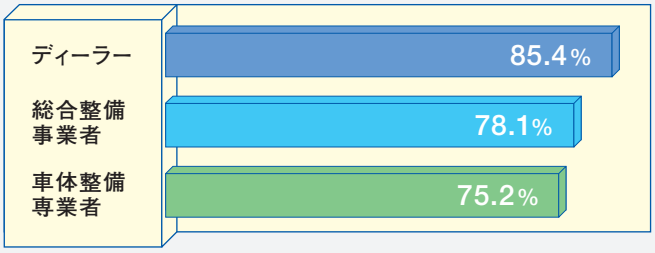
一方、通い箱の納品先調査では、納品先の8割が「(使っても)良い」という回答でした。納品時回収の協力についても、取引先の約7割が「(協力)できる」と答えてくれています。こうした回答をつぶさに分析してみると、通い箱利用の可能性も見えてきます。

NGP協同組合としては、物流の効率化・簡素化は大きなメリットがあると思っており、将来的に組織の枠を超えた取り組みを視野に入れてこの研究・開発を続けて行きたいと思います。

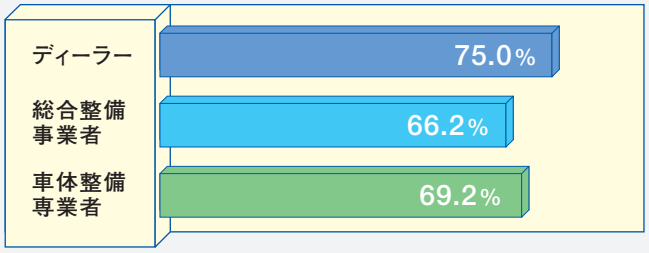
また、物流費削減の課題は、自動車リサイクル部品業界全体にも広がっている問題です。業界全体で工夫をすることで、ボリュームもまとまり、コストダウンをするための近道も見えてきます。他の業界団体に対しても、組織を通じて働きかけていくことを検討しています。

納品先も通い箱やリターナブル梱包材に高い関心示す

通い箱の使用の可能性、使っても「よい」と答えた割合



納品時回収への協力「できる」と答えた割合



能登地震、仲間の応援で迅速復旧

倉庫内の片付けに支部組合員が駆けつけ、力を合わせる

3月25日に発生した石川県輪島沖を震源とする能登半島地震で、震源地に近いリペアパーツ（金山千賀子社長、七尾市白馬町）は当日は休日だったことが幸いし、人的被害はありませんでしたが、在庫部品が落下するなどの影響がありました。

地震直後の停電もおよそ1時間で復旧、パソコン、電話等の通信関係も正常に機能しています。泥水となった水道関係も翌26日午後からは利用できるようになりました。

被災見舞いに26日早朝より、北陸支部の長谷川、山田、佃、戸田の4社長と組合事務局の高橋部長が現地入り、散乱した倉庫内の片づけをリペアパーツの社員と一緒に取り組みました。北陸支部各社の生産者を交代で派遣し、27、28日の2日間で在庫品を点検し、再登録を行うための応援作業をしました。

リペアパーツは、29日には在庫を公開し、通常業務を始めています。

地震直後のリペアパーツの倉庫内

第13回中級研修会、熱きリーダー育つ

第13回中級研修会が3月12～16日、静岡県裾野市のあいおい保険自動車研究所で実施されました。各社の中堅社員36人が参加し、現場を引っ張るためのリーダー研修や、自動車のメカニズムを習得するための技術研修に取り組みました。

「最終日はリーダーシップマネージメントでロールプレイングを行いました。こういった内容の講義は初めてで、とても自分には学ぶことがたくさんありました」（永田プロダクツ・黒石久美子さん）。

「中級研修会は技術的な知識の向上とリーダーの立場でやるべき思考の組み立て方、NGPの一員として自分から率先してやらなければ変化や向上は成し得ないのだと実感しました」（CRS埼玉、内野優さん）など、参加者は研修を通じて大きく視野を広げることができました。

「この研修を境に、今までのマンネリから脱却し、まず自分が変わり、そして会社を変えていきます」（オートパーツ伊地知・並松剛さん）のように積極的な決意を持った人もいます。

〔右〕NGP組合員の中堅社員を集めたマネージメント研修。リーダーとしての自覚を促す

〔左〕会社を引っ張り、販売を拡大するには、メカニズムの知識は必須課題だ

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
九州	有限会社アール・トーヨー	会社組織	株式会社アール・トーヨー	平成19年3月1日

訃報

3月27日、釧路オートリサイクル（北海道釧路市）菊地靖則代表取締役社長のご尊父、菊地常良(きくち・ときよし)様がご逝去されました。享年79歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201